

ようこそ

国際理解・外国人児童生徒教育
サブプログラム へ



国立大学法人

東京学芸大学



国際理解・外国人児童生徒教育 サブプログラム

1. ねらい

2. 授業科目

3. 担当教員

4. 教員紹介

5. 院生の声

国際理解・外国人児童生徒教育サブプログラムのねらい

- グローバル化時代の言語的文化的に多様化する学校現場で、その環境・状況を分析し、問題を把握した上で研究課題を設定し、その探究を通して学校を多文化共生空間として構築するための資質・能力を育成します。
- 第一に、国際理解教育のカリキュラムを開発し、実施する力を、第二に、外国人児童生徒等に対する教育として、異文化適応支援、日本語指導等の教育内容を構成し、実践する力を育み、学校において多様性と包摂性を実現するために求められる教師としての力量の形成を目指します。



サブプログラム授業科目

【プログラム科目】

- ★ 基礎科目: 多様化する社会の学校教育
- ★ 演習: 国際理解・外国人児童生徒教育演習 I・II

【高度選択科目】

- ★ 国際理解教育の内容と方法A・B
- ★ 外国人児童生徒教育A・B
- ★ 国際理解・外国人児童生徒教育の高度研究開発法

【教職専門実習】

- ★ 通年型

【課題研究】

- ★ 学生自らが学校現場等から問題意識や課題を見だし、その課題の改善や解決に向けた研究を行います。



担当教員 専門分野

【担当教員】

教員名	専門分野
李 修京 教授	歴史社会学・多文化共生教育
齋藤 ひろみ 教授	日本語教育学・日本語教師養成
小山 英恵 准教授	教育方法学
原 瑞穂 准教授	日本語教育学
見世千賀子 准教授	比較・国際教育学
米本 和弘 准教授	第二言語教育・多言語多文化教育
立田 順一 特命教授	学校経営・国際理解教育



李 修京 (YI SOOKYUNG, 이수경)

- 専門

人権教育、多文化共生教育、Glocal Citizenship Education、国際関係学、在日コリアン研究、東アジア教育・社会・文化比較、性の多様性研究、歴史社会学

- 授業内容

国際理解教育の内容と方法B など。

多種多様な文化を持つ人々が国境を跨る多文化社会で「他者との出会い」と「共生」のために、異文化理解と人権意識の涵養は重要な課題でもあります。そのために、歴史・社会・文化を念頭に入れつつ、人権教育や多文化共生教育のあり方を模索しています。

在日‘外国人’の‘当事者理解’のため、様々な在日外国人学校や‘民族教育’についても学習しましょう。

たくさん体験し、たくさん学んでいきましょう！

- 専門 : 日本語教育、日本語教師教育、外国人児童生徒教育、異文化間教育

小・中・高等学校を訪問して多様な言語文化背景をもつ子どもたちの日本語教育について、先生方と一緒に検討しています。また、「子どもの日本語教育研究会」で学校・地域の実践と研究との交流の場を創る活動をしたり、『言語教育実践イマ×ココ』の編集を通して実践を研究することに力を注いでいます。その他、言語学習ストラテジー、自律的学習、子どもの日本語作文の分析、内容と日本語の統合学習、日本語教師・多文化教員の資質・能力などについて調査研究を行ってきました。

- 授業内容 : プログラム科目・・・国際理解・外国人児童生徒教育演習 I

高度選択科目・・・外国人児童生徒教育A 、 外国人児童生徒教育B

- ニュースで飛び込んでくる世界各地の情勢が、皆さんが教室で出会う子どもたちの背景であること、少なくありません。最近、アフガニスタンから、ウクライナから、。言語も文化も、社会の体制も異なる国・地域から日本にやってくる子どもたちの教育は、発見とチャレンジとそして自身の成長を感じられる魅力的な営みです。多様性に拓き、子どもたちの母語や母文化が資源となるようなことばの教育と一緒に考え・探り・そして行動しましょう。

■専門 教育方法学

教育方法学の特徴のひとつに、理論と実践を往還する、ということがあります。大学院生時代には、文献を読んで研究するだけでなく、近所の小学校に毎日のように通って授業観察を続ける日々を送りました。

人生をさらにさかのぼれば・・・欧州で異文化の音楽を学んでいました。

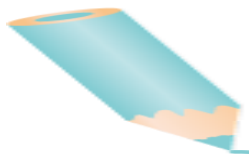
・研究範囲を示すキーワード: 音楽教育、教育評価、国際教育

■主な担当科目について

・国際理解教育の内容と方法A

国際教育は、単に国際的あるいはグローバルな事柄を学習するものではなく、世界の見方を転換したうえで、伝統的な学校教育の在り方の根本的な転換を迫るもの。この授業では、国際教育の内容や方法、授業の具体的なあり方について理論的、体験的、そして芸術的に！探究していきます。

みなさんと一緒に沢山の対話をしながら学べることを楽しみにしています！



原 瑞穂

専門：日本語教育学／バイリンガル教育、国際理解教育、多文化共生、教師教育

学部では、言語学を学び、言語は支配のための強力な武器になること、また、社会的に劣勢な言語は容易に消滅することに驚きました。大学院では日本語教育を学び、文化的言語的に多様な子どもたち（CLD児）が日本社会からの排除や周辺化、同化の中で生きている側面があることを知り、日本語指導のあり方が無関係ではないことに大きなショックを受けました。それ以来、多文化共生や言語生態学の視点からの言語教育のあり方、CLD児の教育保障をライフワークとしています。

また、ことばの教育とは、何語であっても、人が人とかかわりながらいかにことばを使って考え、表現し、分かち合い、共に生きていくためにありたいと考えています。そして、国際理解教育は、私たちがこの世界に生きる者の一員として、多様な背景を持つ人々とともにどのような社会を創っていくのか、どのように生きていくのかを考え、将来に向けて各々が視点を得て、自分の行動を考えることができる教育です。そのためには十全に機能することばの力を育むことが肝要だと考えています。

主な担当科目：外国人児童生徒B

上記を踏まえ、日本語教育、国際理解教育、教師教育のいずれにおいても十分な自己内対話と他者との対話を通して思考の往来と深化を仕組む学習デザインの実現を目指しています。



自分の違和感や疑問を大事に、とことん探究しましょう！

見世 千賀子 (MISE CHIKAKO)

- 専門 比較・国際教育学、異文化間教育、在外教育施設の教育
- 多文化社会の学校教育に関心があり、日本とオーストラリアの多文化教育、シティズンシップ教育（市民性教育）について、理論・政策・実践の側面から研究をしています。近年の研究テーマは、多文化社会の市民性教育（日本、オーストラリア）、日本人学校の教育（国際理解教育、日本語指導、移民学習）、高等学校における外国人生徒教育等。
- 先端教育人材育成推進機構に所属し、国際教育グループと外国人児童生徒教育推進ユニットの事業を担当しています。海外・帰国児童生徒教育、外国人児童生徒教育、国際理解教育に関わる、共同研究や教員研修、フォーラム等のイベントを行っています。
- 担当授業：「多様化する社会の学校教育」「国際理解教育の内容と方法」等。多様化する社会の学校教育課題について、教育政策の新動向、新学習指導要領を踏まえるとともに、各論として、海外・帰国児童生徒、外国人児童生徒等、文化間移動する子どもの教育の現状と課題を検討し、今後の学校教育の在り方について、多様な視点から検討します。



グローバル時代の教育にご関心のあるみなさんに、お会いできることを楽しみにしています！

米本 和弘

- 専門: 第二言語教育、多言語多文化教育
- これまでカナダ、香港、アメリカ、日本で日本語教育に携わってきました。言語教育の中でも、特に言語学習とアイデンティティの関係、言語や話者の多様性に対する意識化などに興味があります。
- このような興味を持つきっかけになったのは、中学校での中国帰国生徒たちとの関わりでした。自分のことばを中途半端だと不安に感じたり、移動によって何か大切なことを諦めたり、様々な問題に直面し、葛藤したりしている生徒とどのように向き合えるのだろうか、彼らについて知れば知るほど、考えるようになりました。
- 担当授業: 多様化する社会の言語教育、外国人児童生徒教育Aなど
- 担当する授業では、ことばの学びが、どのような現実によって形作られているのか、そして、私たち一人ひとりにとって、どのような意味を持つのか、さらに、その学びに教員はどのようにかかわったり、デザインしたりできるのかといったことを、理論と実践とを結びつけながら皆さんと一緒に考えて行きたいと思っています。



ともに学び、考え、楽しみましょう！

立田 順一

- 専門: 学校経営、地方教育行政、国際理解教育
- これまでに横浜市立小学校の教諭や校長・副校長として、外国につながりがある数多くの子どもたちやその保護者と関わってきました。そのなかでも、私が新任教師のときにラオスから編入してきた児童を中心に、クラスの子どもたちと試行錯誤をしながら過ごした日々のことは、今でも強く印象に残っています。また、横浜市教育委員会に勤務していた時期には、現職教員の海外派遣研修なども担当していました。現在は、青年海外協力隊(JICA)の事業に参画をしています。
- 担当授業: 国際理解教育の内容と方法A、国際理解・外国人児童生徒教育演習Ⅱ など
- 各校種における国際理解教育の充実に向けて、理論と実践の両面から検討をしていきたいと考えています。また、外国につながりがある子どもたちにとって居心地がよく、その成長を支えていけるような学級づくりや学校づくりなどについても、皆さんと一緒に考えていきましょう。



対話を通して、一緒に考えていきましょう！

院生の声①



教職専門実習について

- ・ 学校との継続的な関わり
- ・ 担任業務の経験や校内研修・OJTへの参加
- ・ 課題研究に関わる授業実践

課題研究について

- ・ テーマ
多文化共生の態度の育成を目指した実践研究
-小学校における導入的授業の開発を通して-
- ・ 国際理解・多文化共生に精通した先生方からの手厚いご指導

本サブプログラムの魅力

- ・ 授業
留学生との交流
少人数での授業
- ・ 少人数でアットホームな雰囲気
- ・ 授業やディスカッションを通じた理論についての学びと教職専門実習での実践的な学びの往還

※本サブプログラムはR6年度より改訂予定であり、院生の声は改訂以前のR5年度まで(国際理解・多文化共生サブプログラム)の修了生の声です。



院生の声②

教職専門実習

M1秋学期・M2秋学期にて、東京都の公立中学校で実施。

課題研究

【テーマ】

中学校での「特別の教科道徳」における内容項目「国際理解・国際貢献」の授業実践に関する一考察
ー「自分事」としてとらえる意識づくりー

授業など

M1春学期にて、外国にルーツをもつ子どもたちが通うクラスがある小中学校等、さまざまな学校への訪問。



院生の声③

• 少人数ならではの授業

- ⇒密なコミュニケーション
- ⇒様々な専門の人との交流

• 通年型の教職専門実習

- ⇒長い期間での実習
- ⇒構想、実践、反省、改善のサイクル

• じっくりと取り組める課題研究

- ⇒先生方のご指導
- ⇒学生同士の聞き合い

考えを出し合い模造紙を作成しました

様々な人と深く交流できます

院生の声④



本サブプログラムの授業について

☆「国際理解教育」や「多文化共生教育」を多角的な視点から捉えることができる!

例) グローバル化時代の学校教育: 外国にルーツを持つ子どもの教育について

学校教育とマイノリティの子ども: 日本語教室視察、様々なマイノリティ(セクシャルマイノリティを含む)について
個別的な課題(日系人、在日朝鮮人…)を捉える

※2020年度

授業での交流について

☆他のプログラムから参加した方々の専門的知識を得ることができる

例) 「多文化共生」について社会科としての知見を得る。言語的な面で国語科の方から知識を得る

☆ディスカッションやグループワークを通して学ぶ授業が多い

→人脈が増えていく

☆先輩方からのアドバイス

→実習や課題研究に取り組むにあたって、非常に参考になった



教授方のサポートの手厚さ

☆私自身が入学して一番最初に実感したこと

☆交流を大事にしてくださっている

☆課題研究等、特定の教授に限らず、SPの教授方全員が助言・指導してくださる



国際理解・外国人児童生徒教育サブプログラムで
お待ちしております！



Gakugei



Gakugei

Pioneering spirit for education and wisdom

